社会福祉法人 福島県社会福祉協議会

ホットな福祉情報誌

はあとふるふくしま

2023
7月
No.318

特　集

地域から愛される社会福祉法人をめざして

シリーズ［未来へつなごう“ふくしま”から］

当事者や家族の声に寄り添うことから始まる障がい児支援と活動の広がり

2023年度シリーズ
ふくしまのみらい

ワクワク・キラキラの瞳で
「せーの、ジャン・ケン・ポン！」
（いわき市・さくら保育園）

目の不自由な方のために「はあとふるふくしま」は音訳版および点訳版を作成しています。

「はあとふるふくしま」は作成経費の一部に、共同募金配分金及び特別賛助会員の寄付金を使用しています。

特集
ZOOM UP

地域から愛される社会福祉法人をめざして

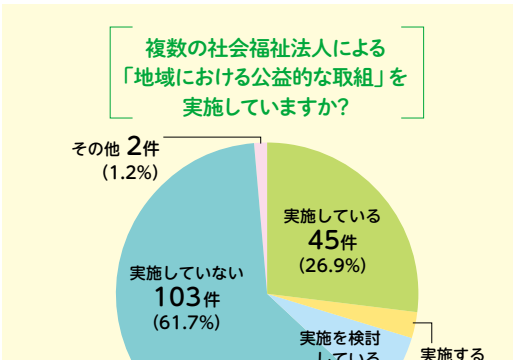
社会福祉制度の基礎となった「社会福祉事業法」が1951年（昭和26年）に制定され70年以上が経過し、全国に約2万の社会福祉法人が誕生しました。
今回は、この社会福祉法人の責務として位置づけられている「地域における公益的な取組」について取り上げます。

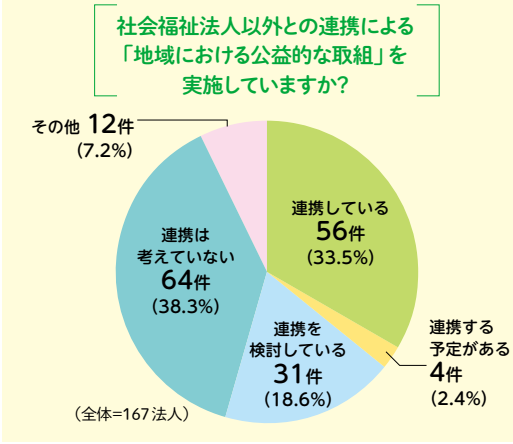
■地域における公益的な取組の現況

平成28年度の社会福祉法改正により、社会福祉法人の責務として社会福祉法第24条第2項に基づく「地域における公益的な取組」が位置づけられて5年以上が経過しました。

県社協ならびに福島県社会福祉法人経営者協議会では、県内の社会福祉法人（市町村社協等を除く）238法人を対象に「令和4年度　地域における公益的な取組に関する調査」を実施し、222法人から回答を得ました。その結果、多くの社会福祉法人が、その専門性やノウハウを活かし、関係機関・団体と協働しながら「地域における公益的な取組」を実施していることが分かりました。調査結果は、県社協HPで公開しています。

令和4年度
地域における公益的な取組に関する調査結果について
（県社協ホームページ）





■社会福祉法人のはじまり

終戦直後、日本は戦災孤児、戦争による身体障がい者、失業者などであふれ、国家的な制度が未整備の中、「旧生活保護法」「児童福祉法」「身体障害者福祉法」ができました。そして、これらの施策を推進するために、昭和26年に社会福祉事業法が制定され社会福祉法人が誕生しました。

その後、社会福祉法人の目的である社会福祉事業が時代の変化とともに制度として整備されていく中、社会福祉法人は税制上の優遇措置や社会福祉事業等の事業費として支払われる措置費や委託費、介護報酬等の公費などの財政的な裏付けを得ながら、社会福祉事業の「主たる担い手」として中核的な役割を果たしてきました。こうしたことを背景に、社会福祉法人は事業経営の透明性を図ることとされ、高い公益性を有する法人となっています。

社会福祉法人への期待

本県が生んだ社会福祉事業の先駆者である瓜生岩子は、戊辰戦争の爪痕が色濃く残るなかで、敵味方なく負傷兵や難民の看護にあたり、身寄りのない子どもたちに手を差し伸べ続けました。このように社会福祉事業が明確に制度として規定される以前からあった慈善事業や福祉的な行為は、社会が必要としていることに対し真摯にこたえてきたものです。社会福祉の先駆者たちは、制度になっていないからこそ柔軟に対応し、これがモデルとなって制度化されたものも多く、そのような取組があって、社会福祉法人は社会的な信頼を得てきた歴史があります。

現在、社会福祉事業は次々と制度化されてきていますが、少子高齢社会の中で私たちが暮らす地域は大きく変化しています。地域における福祉的な課題は、さらに複雑化・多様化・長期化し、また、新型コロナウイルス感染症による影響や昨今の物価高騰などの影響もあり、制度だけでは対応しきれないニーズが次々と増えています。

社会福祉法人は、制度として整備された社会福祉事業を中核にしながらも、変わりゆく地域社会の中で住民が抱える多様なニーズと向き合い、福祉関係者をはじめとする関係機関・団体との有機的な連携を試みながら、新たな発想、創意工夫により「地域における公益的な取組」を実践していくことが期待されています。

病気・負傷・障がいや貧困などの生活上の困りごとに対して、人々が支え合うことは、これまでもずっと取り組まれてきました。
社会福祉制度の歩みは、「実践」のなかから理論・技術が形成され、制度化されてきました。

Interview

地域における
公益的な取組を
進めるためのヒント

その土地に暮らす一員として「地域」を考えてみることが大事だと思います。

社会福祉法人 青葉学園
常務理事
神戸（こうべ） 信行（のぶゆき）さん

教職生活を経て昭和54年に(社福)青葉学園へ入職。子どもたちの養護や自立支援など、時代の変遷とともに複雑多様化している子どもや家族を取り巻く課題に関係機関と連携しながら真摯に取り組んできた。

社会福祉法人が「地域における公益的な取組」を始めようとすると、地域にアンケートを取ったり、福祉ニーズを調査したりといった考えに陥りがちです。『福祉の専門機関として地域に貢献する』と大上段に構えてしまうと、結果的にうまく回らないことが多いように思います。地域における公益的な取組とは、たとえば児童養護施設の場合は子どもたちだけを対象とした社会貢献をするというニュアンスではありません。社会福祉法人として地域の中の身近な生活課題にどのように福祉的に関わっていくか、その視点を持つことが大事です。

その土地に根を張って共に暮らす一員として地域を眺めてみると、本当の意味で地域が困っていることがクリアに見えてきます。そのとき、自分たちの福祉の専門分野とは大きく異なる問題もおそらく出てくることでしょう。それを「ウチの分野ではない」と切り捨てるのではなく、解決の糸口をたぐり寄せるためには「誰とつながればよいのか」、地域の問題を地域の仲間と共有し、夢を語り合うところから始めてみてはどうでしょうか。

なにか格好いいことをやるのではなく、やれるところからやる。地域に吹く新しい風はたとえ小さくとも、皆さんの背中を力強く押してくれるはずです。

事例紹介

地域における公益的な取組

社会福祉法人 青葉学園（福島市土船区）

福島市土船区

福島市の西部に位置し、吾妻小富士の麓に広がる豊かな自然に恵まれた地区。昭和20年代に約600名いた地元小学校の児童数は、約60名までに減少し、65歳以上の高齢化率はもうすぐ50%と少子高齢化が進展。

戦災孤児の養育と教育のために青葉学園を創設

昭和21年、国語学者でローマ字教育研究者であった三尾砂（みおいさご）氏が、戦災孤児の養育と教育のために伊達郡茂庭村（現在の福島市飯坂町茂庭地区）に青葉学園を創設し、三尾夫妻の家庭に数名の児童を迎え、家庭的な養育を基盤として出発しました。

昭和28年4月に社会福祉法人となり、昭和30年5月に現在の福島市土船区に移転。モモ、ナシ、リンゴなどの果樹畑が広がり自然あふれるこの地区で、創設以来一貫して児童養護施設として、家庭的な環境の中で子どもたちを社会に送り出し、卒園生はすでに800名を超えています。

青葉学園のある土船区は、春の訪れとともに花々がいっせいに咲き誇り、辺り一面が美しい桃源郷の世界に包まれます。

① 刻々と変わりゆく地域の中で

社会福祉法人と地域との絆

青葉学園のある土船区は果樹畑が広がるところで、学園の子どもたちは通学時に地域の皆さんと挨拶を交わし、地域の子どもと一緒に見守られながら成長してきました。しかし、急激な少子高齢化により75歳以上の独居世帯や空き家が増えるとともに、農業従事者の高齢化・担い手不足により耕作放棄地が増加し、青葉学園近隣のモモやナシの木も毎年切られています。地域が変わっていく姿を目の当たりにし「土船のこの景色を守りたい」、「子どもたちが育ったこの地域に恩返しを」という気持ちを出発点に公益的な取組が始まりました。

青葉学園と地域住民が育んできた深い絆から公益的な取組が始まりました。

土船区長　宍戸（ししど） 修一（しゅういち）さん

② 土船のために力を貸してほしい！

行政区が参加し「福島地域福祉ネットワーク会議」発足

1年間の学習会・勉強会を経て、令和元年4月「福島地域福祉ネットワーク会議（以下ネットワーク会議）」を結成。児童・高齢者・障がい者という福祉分野の枠を超えて集まり、さらに地域行政区として土船区も参加しました。事務局は青葉学園が担い、地域共生社会の実現に向けて13団体が協働で活動しています。

令和元年5月の会議の様子

障がい者福祉
◆社会福祉法人しのぶ福祉会
◆社会福祉法人けやきの村
◆一般社団法人シャローム福祉会
◆NPO法人福島・伊達精神障害福祉会
◆NPO法人acty　◆NPO法人シャローム　◆合同会社楽膳

高齢者福祉
◆NPO法人まごころサービス福島センター（どんぐり学童クラブ）

児童福祉
◆社会福祉法人青葉学園　◆社会福祉法人福島敬香会
◆NPO法人ビーンズふくしま　◆ボランティア団体すけっとくらぶ

地域行政区
◆土船区

所管：福島市 健康福祉部 共生社会推進課

特集
ZOOM UP

青葉学園を中心に広がる公益的な取組

土船かわら版

1,500部作成し、土船区の全世帯（180戸）やネットワーク会議関係者に配布するとともに、市役所や支所、地域包括支援センターに届けています。

13団体が連携して土船区の活性化に取り組んでいます。

福島地域福祉ネットワーク会議
事務局長
吉野（よしの） 裕之（ひろゆき）さん

移動支援

住民同士の助け合いから始まった「土船おでかけサポート」。ワンコインで利用でき、高齢者、障がい者など年間の延べ利用者数は400人を超えます。

オリジナルのマグネットシート。利用者を乗せる時に車に貼り付けます。▶

農福連携

土船区のみなさんと顔なじみになり、楽しげにてきぱきと仕事をこなしています。なくてはならないパートナーには、工賃が支払われています。

❸ ここにあったやり方で、まず、取り組んでみよう！

「移動支援」「農福連携」「土船かわら版」を柱に

ネットワーク会議で土船区（地域行政区）から出された課題は、通院や買い物などの移動支援と農家の高齢化でした。

「移動支援」は、地区内でドライバーを募りボランティア運転手講習会を開催。ドライバーも利用者も会員制にし、会員同士が連絡を取り合い自家用車で迎えに行く、シンプルなルールを採用しました。

「農福連携」では、障がい者の皆さんが働く様子を地域の方々が見学し、障がい者施設からも実際の農作業を見学しに来てもらう機会をつくりました。障がいのある方々にどんな農作業をお願いするか、丁寧にマッチングして連携を進めました。

「土船かわら版」は隔月発行の情報紙で、ネットワーク会議の活動や地域の情報を取り上げ、地域住民とネットワーク関係者、住民同士のつながりを深めることを目的としています。

❹ やってみることで見えてくる新たな課題

青葉学園を中心にますます広がる活動

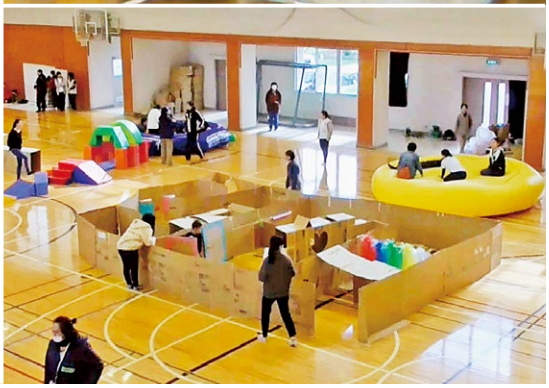
ネットワーク会議で一つ一つの課題と向き合い、それぞれ事業として取り組み始めたことで、新たな地区の課題に気づき、雪かきや草むしり、フードバンクやフードロス対策など活動に広がりが出ています。「ネットワーク会議に参加し、障がい者施設と連携することができました。定年が延長され、地域に帰ってくる住民が高齢化するなか、地域だけでは課題を解決することが難しくなっています。この地域の活性化には社会福祉法人などによる応援がますます必要になってくると思います。土船区に青葉学園があって、本当に良かった」と宍戸区長は話してくださいました。

一人暮らし世帯の雪かきを支援

困窮世帯へ食材を届けています

一般社団法人 ふくしまをリハビリで元気にする会

当事者や家族の声に寄り添うことから始まる障がい児支援と活動の広がり



とある日の「あしかの遊びの会」の様子。広い体育館の中では、トランポリンや綱引き、壁画など、さまざまな遊びが行われていました。一つ一つの遊びにはきちんと意味があるのだとか。

取材協力
一般社団法人
ふくしまをリハビリで元気にする会
郡山市大槻町字下篠林28-1
TEL 090-4478-6832
https://fukushima-genki.jp/

障がい児がのびのびと遊べる場をつくりたい

東日本大震災後、障がい児がのびのびと遊べる場をつくろうと発足した「あしかの遊びの会（以下・遊びの会）」の活動等により第51回医療功労賞を受賞した岡本宏二（おかもとこうじ）さん。医療功労賞は日本の過疎地域や離島、被災地などで地域に密着した活動を続けてきた医療福祉関係者を表彰する賞で、今回、岡本さんが受賞した中央表彰受賞は、全国の表彰者の中から特に功績の顕著な者に贈られ、天皇皇后両陛下に拝謁できる栄誉を賜ります。

長年作業療法士として、障がい児の小児リハビリにも携わってきた岡本さんは、東日本大震災後、障がい児の遊び場がなくて困っているという保護者からの切実な声を受けて、２０１２年５月に「あしかの遊びの会」を発足しました。「保護者の声をないがしろにはできないという思いで必死でした」と当時を振り返ります。はじめは小さな会議室から始まった遊びの会ですが、保護者の口コミや保健師の呼びかけなどで回を追うごとに参加者は増え、今では大きな体育館を貸し切るほどに。この12年間で開催数は約40回、参加者やボランティア関係者などを含めた参加人数は、延べ２５００人にのぼります。

理事長の岡本宏二さん。「これまでたくさんの人に支えてもらい感謝しています」と素直な気持ちを話します。

医療功労賞を受賞して

「遊びの会の活動を（功績として）認めてもらったということは、障がい児にも思いきり遊べる場所や偏見のない大人の目などが大切だということが認められたのだと思っています」と岡本さん。「まずは福島県内で活動を広めて、いつか全国にも広まればうれしい」と話します。また、活動を知った人たちが今度は参加者として関わったり、自分たちで遊びの場を企画したりするなど、活動の輪を広め

赤い羽根でささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会
〒960-8141 福島市渡利字七社宮111（福島県総合社会福祉センター内）
電話 024-522-0822　FAX 024-528-1234
メールアドレス　akaihane@axel.ocn.ne.jp
ホームページ　https://akaihane-fukushima.or.jp/

令和4年度収入支出決算報告

福島県共同募金会の令和４年度収入支出決算をご報告いたします。詳しい寄付金の使いみちについては県共同募金会ホームページや「赤い羽根データベース“はねっと”」で公開しております。

法人貸借対照表

勘定科目	当年度末
資産の部	
【流動資産】	523,992,041
現金預金	523,982,041
事業未収金	10,000
【固定資産】	113,137,018
基本財産	3,000,000
定期預金	3,000,000
その他の固定資産	110,137,018
車両運搬具	1
器具及び備品	1
ソフトウェア	520,972
無形リース資産	2,720,520
退職手当積立基金預け金	8,388,780
退職給付引当資産	2,620,420
基金積立資産	91,195,724
台湾基金積立資産	4,680,000
リサイクル預託金	10,600
資産の部合計	**637,129,059**

勘定科目	当年度末
負債の部	
【流動負債】	375,680,911
事業未払金	1,130
未交付配分金	329,230,645
１年以内返済予定リース債務	1,088,208
預り金	192,596
職員預り金	330,696
災害等準備金	44,837,636
R元年度災害等準備金	9,977,636
R２年度災害等準備金	11,590,000
R３年度災害等準備金	11,740,000
R４年度災害等準備金	11,530,000
【固定負債】	15,131,872
リース債務	1,632,312
退職給付引当金	13,499,560
資産の部合計	**390,812,783**
純資産の部	
【基本金】	5,220,247
【その他の積立金】	95,875,724
基金積立金	91,195,724
台湾基金積立金	4,680,000
【次期繰越活動増減差額】	145,220,305
（うち当期活動増減差額）	266,945
純資産の部合計	**246,316,276**
負債及び純資産の部の合計	**637,129,059**

令和５年３月31日現在【単位：円】

月に1回程度の専門職の勉強会の様子。コロナ禍は、オンラインも併用しながら、事例検討を行ってきました。毎回30名程度の専門職が参加しています。

医療功労賞受賞記念講演の様子。テーマは「遊びから見える子どもの発達」。多くの人が岡本さんの話を楽しみに会場に足を運びました。
※福島県作業療法士会主催

図１ 岡本さんが大切にしている「人間の4つの幸せ」

※日本理化学工業の会長であった大山泰弘（おおやまやすひろ）さんが禅僧から教わったという言葉で、人間の幸せはこの４つで成り立っているという教え。

てほしいとも話します。こうした活動の広がりが、障がいに対する理解や働きかけの浸透へとつながり、障がい児やその家族が暮らしやすい社会づくりの一歩になると岡本さんは考えています。遊びの会の活動以外にも、教育や福祉・医療など、障がい児支援の専門職が多く参加する勉強会を開くなど、分野の垣根を越えたつながりづくりにも注力している岡本さん。さらに、支援が必要な当事者やその家族の思い・声に寄り添うため、地域の人やサービスをつなぐ仕組みづくりにも尽力し、精力的に活動しています。

今回の取材の最後に、岡本さんが大切にする「人間の４つの幸せ」図１を教えてもらいました。遊びの会にはそのすべてがあると言います。だからこそ「遊びの会」は子どもも大人も、参加する誰もが「幸せになる会」だと微笑んでいました。地域の「幸せ」をつくる活動は、さまざまな場所や人によって紡がれています。岡本さんもその紡ぎを担う一人として、今日も走り続けています。

発行・企画編集　社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
TEL(024)523-1251(代) FAX(024)523-4477
URL https://www.fukushimakenshakyo.or.jp
メール heartful@fukushimakenshakyo.or.jp

県社協からのお知らせ

第31回『瓜生岩子賞』表彰候補者の推薦について

本県が生んだ社会福祉事業の先覚者・瓜生岩子刀自（うりゅういわこ とじ）※は、幕末から明治にかけて激動の時代に社会慈善家として活躍し、今日の日本社会福祉の礎を築き、その功績が称えられ女性初の藍綬褒章を受章した人物です。

※刀自：主に年輩の女性を、敬意を添えて呼ぶ語

本会では瓜生岩子の遺徳をしのび、その偉業を永く後世に伝えるため、岩子刀自の精神にふさわしい社会福祉に功績のあった方々を顕彰する『瓜生岩子賞』表彰制度を平成５年に創設し、今年度31回を迎えます。

皆様のお住まいの地域で熱心に活動をされている方や団体等のご推薦をお待ちしております。

表彰の対象

県内に在住し、永年にわたり社会福祉の分野においてその功績が特に顕著である個人及び団体

応募・推薦の方法

指定の応募・推薦書様式に必要事項をご記入のうえ、**8月10日（木）までに、福島県社会福祉協議会会長あて**に提出願います。応募・推薦書様式は県社協ホームページからダウンロードしてください。

（県社協トップページの下段にある
▶顕彰・表彰 → 瓜生岩子賞の案内）

その他

その他詳細については『瓜生岩子賞 表彰要綱』をご覧ください（県社協ホームページからダウンロードできます）。

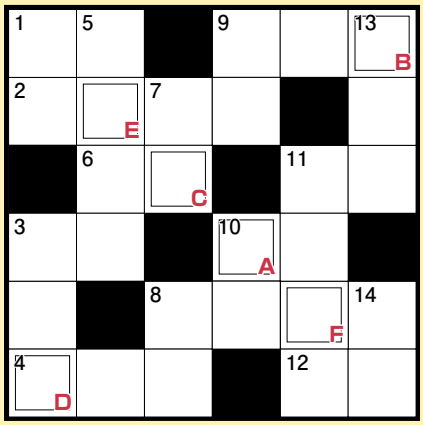
昨年度より一般の方（個人又は団体）が直接応募・推薦できるようになりました。

お問い合わせ先
福島県社会福祉協議会　いきいき長寿室
〒960-8141　福島市渡利字七社宮１１１　福島県総合社会福祉センター２階
電話 024-524-2224　FAX 024-524-2228
ホームページ https://www.fukushimakenshakyo.or.jp

クロスワードにチャレンジ！

▶ヨコのカギ
❶ ⇔ タ
❷「福笑い」でつけるものと言えばコレ
❸ 退屈なとき持て余します
❹ 部屋に入るとき扉にトントントンとします
❻ 金属の酸化現象。鉄は赤茶色になってボロボロに
❽ 相手の機嫌を計り知るのにうかがいます
❾ 新エネルギーとして期待の元素。元素記号「H」
❿ 信号で進んではいけない色
⓫ 宮沢賢治の童話でゴーシュが弾いています
⓬ 大きな桃を拾ったころ、おじいさんが刈っていた

▼タテのカギ
❶ 関西人が「ちゃん」付けするお菓子
❸ アジやホッケを開いて乾燥させた加工食品
❺ に対反と態状の来本が係関の表裏・後前・右左・下上
❼ 待ちわびている人が長くする身体の部位
❽ 斜めに進める将棋の駒
❾「江戸っ子だってねぇ」と森の石松が勧めた食べ物
❿ 信号で進むことができる色
⓫ 日本以外の国々の歴史を学ぶ教科
⓭ ほぐした魚や挽肉を味付けし、いり上げた食べ物
⓮ ブレーメンの音楽隊のメンバーで一番大きい



全部できたら二重ワクの5文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。

A	B	C	D	E	F

応募方法　ハガキまたはEメールにパズルの答えと ①住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、ご応募ください。
締切　令和5年8月10日（木）
宛先　〒960-8141 福島市渡利字七社宮111
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会「はあとふる・ふくしまパズル係」

メールでのご応募はこちら！

正解者の中から抽選で3名にプレゼントが当たる

今月のプレゼント

特定非営利活動法人あさがお
（南相馬市）
青ばた豆粉のパウンドケーキ&青ばた豆のおつまみ

当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

＼多数のご応募ありがとうございました／

6月号の正解　「ボンジヨイ」（ぼんじょい）

※ご記入の個人情報は適切に管理し、目的以外に使用しません。
※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部は、「読者のおたより」に掲載させていただく場合もございます。

4・5月号に寄せられた読者のおたよりから

どうしても性に関することは公にするのはタブーなイメージがありますが、そのイメージを前向きなものに変えていかなければなと思いました。
（47才　福祉職）

自分の子どもも障がい児で、就労Bで仕事をさせていただいています。少しでも力になれればといつも思っております。これからも応援・協力したいと思います。
（59才　看護師）

編集後記

そろそろ、子どもたちは夏休みに入るころですね。夏の思い出といえば…？半分寝ていたラジオ体操、泣きながらやった自由研究、友だちと行った盆踊り、真剣だった線香花火。なんだか思い出すことは、子どもの頃の記憶ばかりで何気ない日常の風景。今年も素敵な夏になりますように。
（福祉サービス支援室　齋藤奈緒（さいとうなお））

※本誌に掲載の記事・写真・イラストの無断転載・複製を禁じます。
発行日／令和5年7月14日
制作・印刷／㈱日進堂印刷所